



1/350 scale plastic model kit • skill level **3** ages 15 and up • part no. 2001-8



discovery XD-1

2001:
a space odyssey™

nuclear powered deep space research spacecraft

組み立てる前にお読みください

傑作SF映画「2001年宇宙の旅」に登場する木星探査宇宙船ディスカバリー号を再現したプラスチックモデル組み立てキットです。映画の設定の1/350スケールで再現されたこのキットはディスカバリー号のディテールを再現するために細かなパーツが多く含まれています。よく似た形のパーツもたくさんありますから組み立てる前に説明書をよく読んで、内容を把握して作業をすすめると良いでしょう。

さあ、準備を整えてディスカバリー号を完成させましょう。

- 組み立てにはプラスチックモデル用の工具を用意してください。パーツを枠から切り取るニッパー、切り取ったパーツの切り口などを整形するシャープなナイフ、カッターナイフなどを用意します。
- 切り取ったパーツは接着する前に一度接着剤をつけずに組み合わせてみて、合わせをチェックしましょう。合わせをチェックしたあとに接着剤を使って接着します。
- 組み立ては説明書の順番に従って進めてください。
- 急いで組み立てずにゆっくりと確実に作業することがいい仕上がりに繋がります。
- プラスチックパーツの接着にはプラスチックモデル専用の接着剤を使用してください。また、金属棒や金属製アンテナクロスバーパーツの接着には瞬間接着剤やエポキシ系接着剤などを使用してください。

- プラスチックパーツの接着では接着剤が外側にはみ出さないよう、内側を中心に接着剤を塗るようにしましょう。

- 接着するときには接着剤がパーツの表面や手につかないように注意して作業しましょう。

キットの塗装

塗装にはプラスチックモデル用塗料を使用してください。万一お手持ちの塗料が使用可能かどうか判断できない場合はパーツの枠の部分など、不要部分でテストしてください。

このモデルは各パートごとに組み立てられるように設計されています。全体を仕上げたあとに塗装するよりも、各パートごとにそれぞれ塗装していくと便利です。

例えば数多く取り付けるカーゴモジュールはサポート取り付けフレームに取り付けていく前に塗装すると良いでしょう。

その他にも組み立ての途中で部品ごとに塗装してから組み立てたほうが良い場合もあります。全体の流れを確認してから進めましょう。

また、全体の塗装について最後のページに塗装のテクニックやアドバイスなどを紹介しています。仕上げの参考にしてください。

! 組み立てを始める前に

まずは組み立て説明書をよく読んでください。
このモデルは小さくて同じような形のパーツがたくさんあります。組み立てる部品を間違えないようによく確認して作業をすすめるとういでしょう。

重要: パーツをランナー(枠)から切り離したあと、切り口はカッターナイフなどできれいに整えておきます。パーツの接着面に切り取り口などが残ると組み立てがうまく行かない場合があります。

!

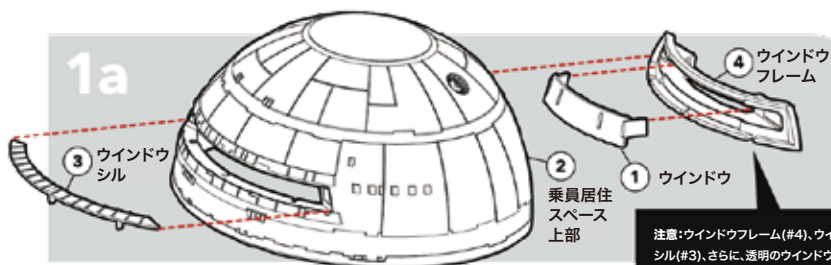
注意: パーツとランナー(枠)のつながっている部分に注意してください。パーツを切り離すときにパーツを傷つけないように注意して切り離します。また、切り離した部分の切り口をカッターナイフなどで整える際にもパーツのディテールなどを削ってしまわないように気をつけてください。

50

48

48

1a

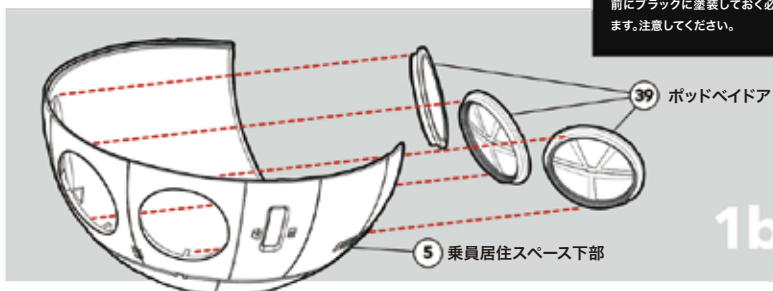


注意: ウインドウフレーム(#4)、ウインドウシル(#3)、さらに、透明のウインドウパーツ(#1)もバーの部分をそれぞれ組み立てる前にブラックに塗装しておく必要があります。注意してください。

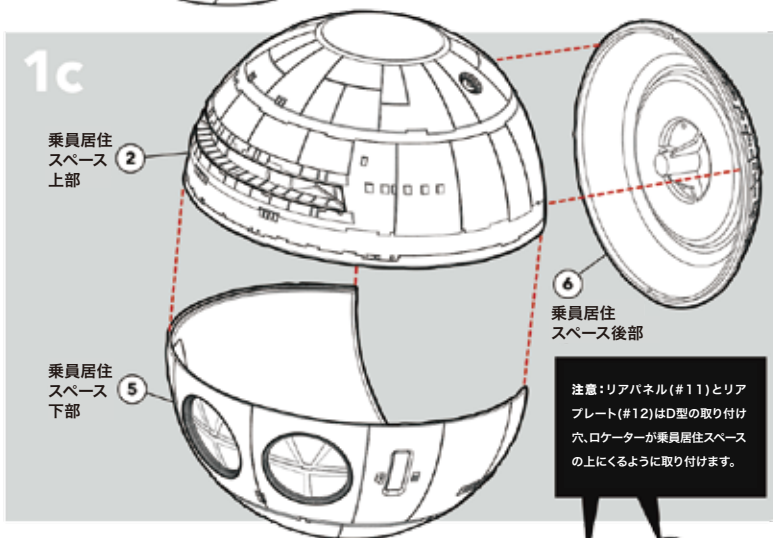
1 乗員居住スペースの組み立て

- 最初にウインドウシル部品(#3)を乗員居住スペース上部パーツ(#2)の図の位置に接着します。次にウインドウフレーム(#4)に透明のウインドウパーツ(#1)を接着します。
- 乗員居住スペース下部パーツ(#5)にポッドベッドパーツ(#39×3個)を接着します。
- 乗員居住スペースパーツの上下(#2・#5)を合わせて接着します。その後、後部パーツ(#6)を接着します。
- 乗員居住スペースのネックアッセンブリー(#7、#8、#9、#10)を組み立てます。その後でリアパネル(#11)とリアプレート(#12)を取りつけます。このとき、取り付けの向きに注意してください。D型の形の取り付け穴、ロケーターが上にくるように取り付けます。最後の組み立てで船体の背骨部分のパーツと正確な位置に取り付けるために重要です。
- 乗員居住スペースのネックアッセンブリーは居住スペースの背面に接着したらその状態で一旦アッセンブリーを置いておきます。

1b

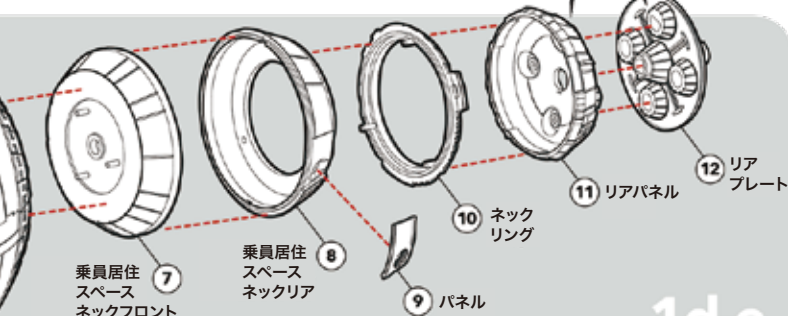
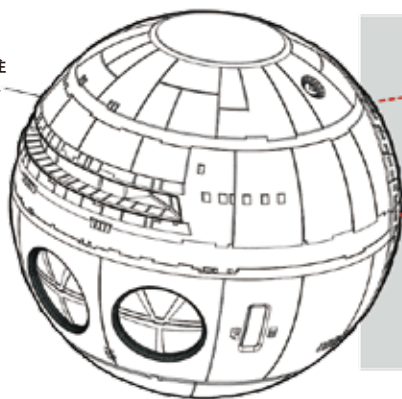


1c



注意: リアパネル(#11)とリアプレート(#12)はD型の取り付け穴、ロケーターが乗員居住スペースの上にくるように取り付けます。

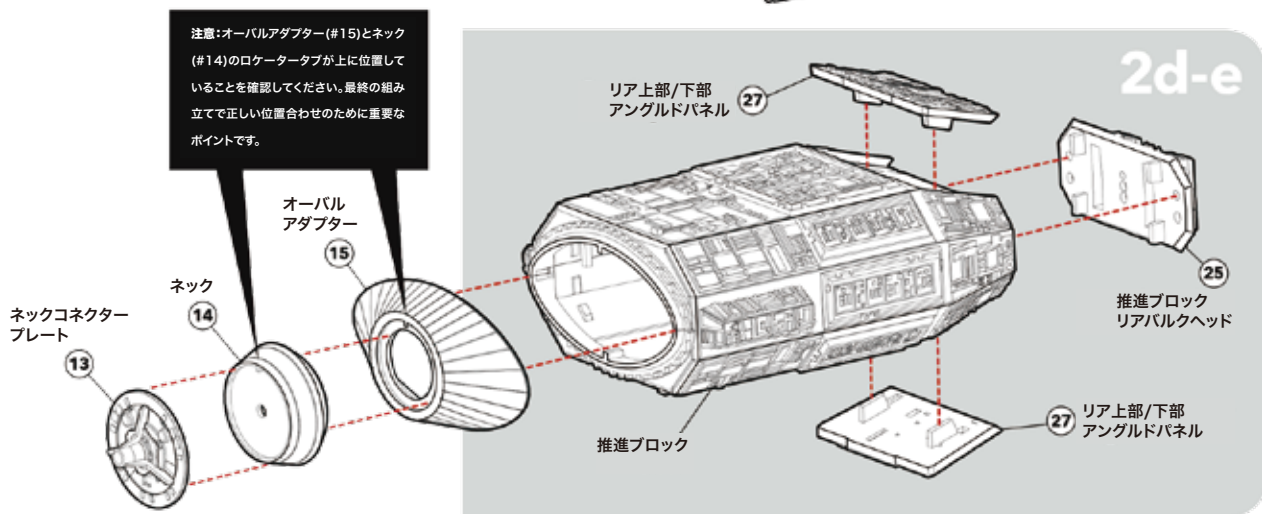
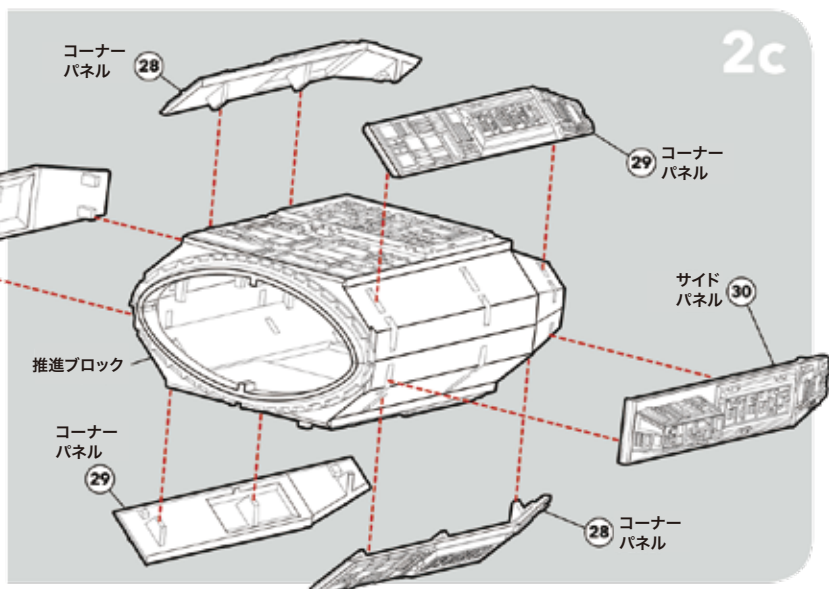
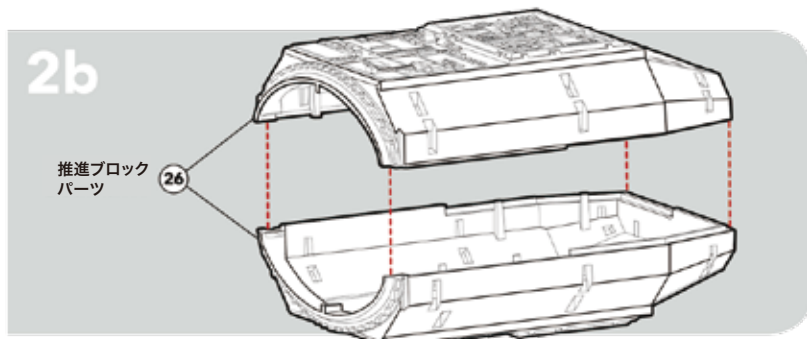
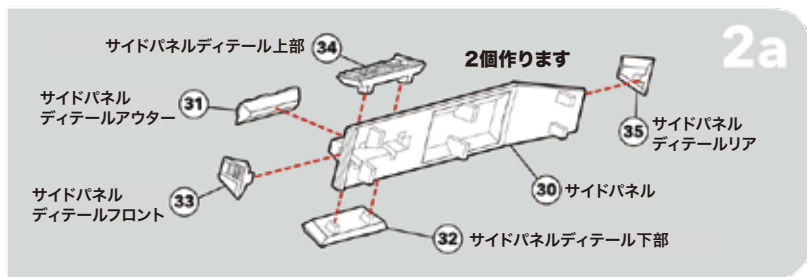
乗員居住スペース



1d-e

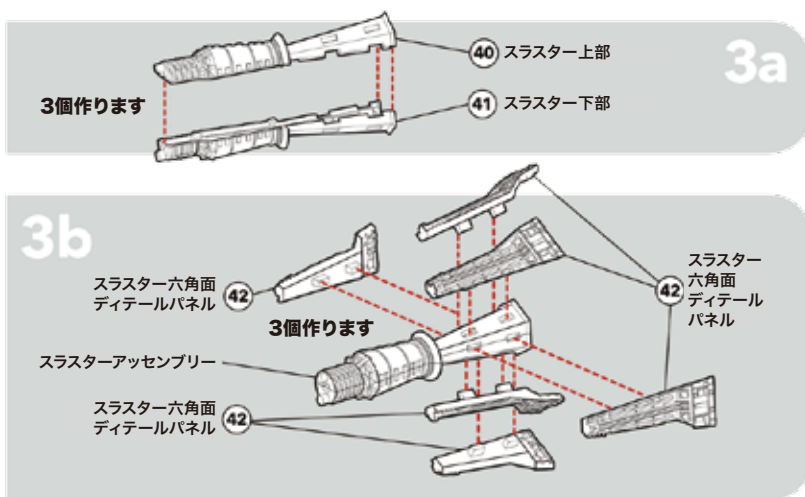
2 推進ブロックの組み立て

- a** サイドパネル(#30×2)にディテールパーツを次の順番で取り付けていきます。: 下部/上部(#32×2、#34×2)、フロント(#33×2)、リア(#35×2)、アウター(#31×2)。これらのパーツを取り付けた状態で置いておきます。
- b** 推進ブロック上部と下部(#26×2)を接着します。
- c** コーナーディテールパネル(#29×2、#28×2)とaで作ったディテールパーツを取り付けたサイドパネル(#30×2)を推進ブロックの両サイドに取り付けます。
- d** リア上部/下部アングルドパネル(#27×2)と推進ブロックリアバルクヘッド(#25)を取り付けます。
- e** オーバルアダプター(#15)、ネック(#14)、ネックコネクター・プレート(#13)を組み合わせて推進ブロック・ネックアセンブリを作ります。このとき、図のタブが上に来るように注意してください。そして、この推進ブロック・ネックアセンブリを推進ブロックアセンブリに取り付けます。完成した推進ブロックアセンブリはそのまま置いておきます。



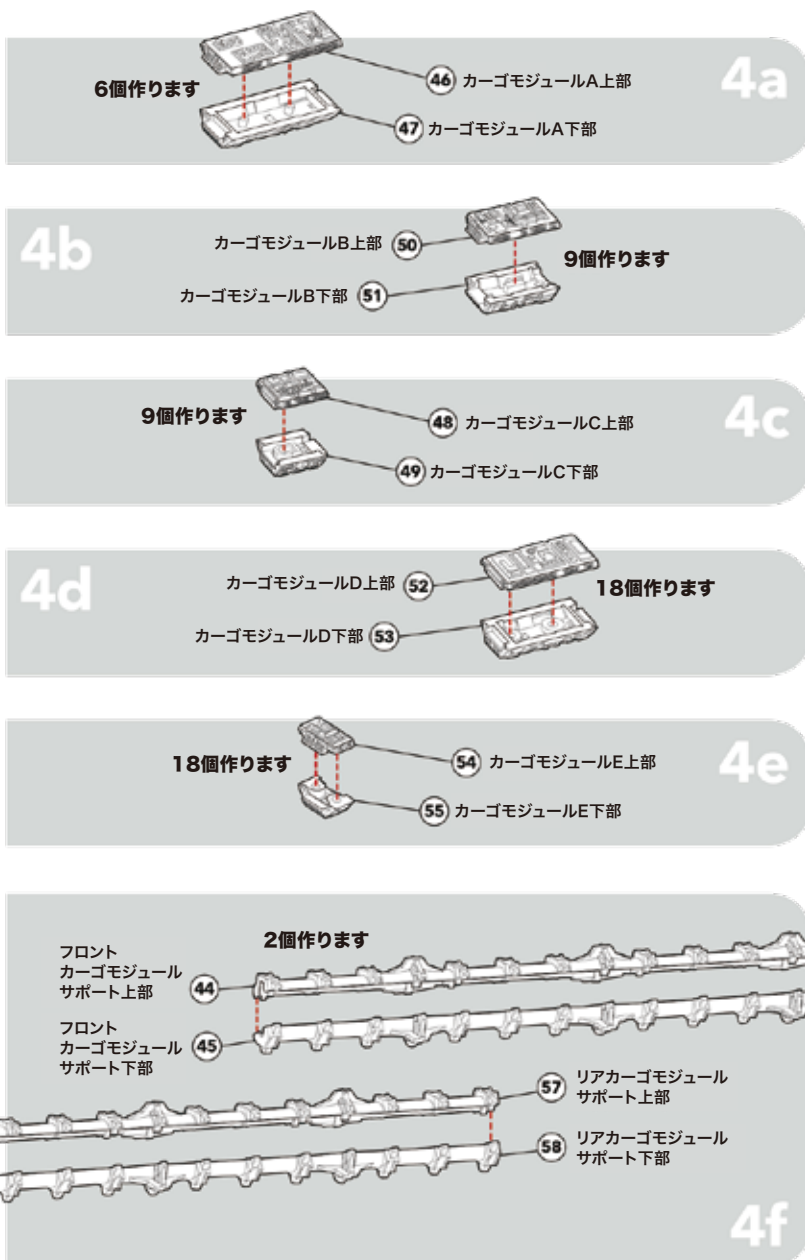
3 スラスターの組み立て

- a スラスター上部 (#40)とスラスター下部 (#41)を接着します。このアセンブリーを3個作ります。
- b スラスター上部、下部を組み合わせたアセンブリーパーツに6枚のスラスター六角面ディテールパネル (#42)を接着します。3個ともディテールパネルを接着します。一旦、出来上がったスラスターアセンブリーは脇においておきます。



4 カーゴモジュールの組み立て

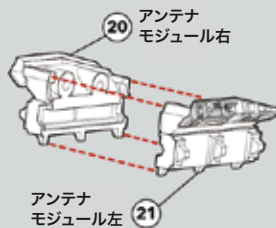
- !** ワンポイント: ディスカバリー号の背骨部分はさまざまなサイズのカーゴモジュールで構成されていることに注意してください。モジュールは5種類あります。モジュールAからEまでありますので後で最終組み立てのときにわかりやすいように、出来上がったモジュールを小箱等に分けて整理しておくとうれいでしょう。
- a カーゴモジュールAを6個作ります。上部 (#46)、下部 (#47)を接着してください。
 - b カーゴモジュールBを9個作ります。上部 (#50)、下部 (#51)を接着してください。
 - c カーゴモジュールCを9個作ります。上部 (#48)、下部 (#49)を接着してください。
 - d カーゴモジュールDを18個作ります。上部 (#52)、下部 (#53)を接着してください。
 - e カーゴモジュールEを18個作ります。上部 (#54)、下部 (#55)を接着してください。
 - f カーゴモジュールサポートを作ります。フロントは2組作ります。フロントカーゴモジュールサポート上部 (#44×2)と下部 (#45×2)を上下接着してください。そして、リアはリアカーゴモジュールサポート上部 (#57)と下部 (#58)を接着して1組作ります。



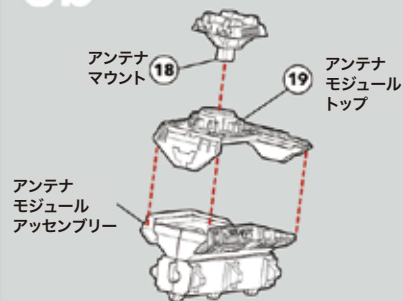
5 アンテナモジュールの組み立て

- a アンテナモジュールの右パーツ(#20)、左パーツ(#21)を接着します。
- b 組み立てたアンテナモジュールアッセンブリーにアンテナモジュールトップ(#19)とさらにアンテナマウント(#18)を取り付けます。
- c アンテナに取り付けるエッチング製のアンテナクロスバーを加工します。大きなクロスバーパーツは大型円形治具(#59)、小さなクロスバーパーツは小型の円形治具(#60)に押さえて、治具の曲率にパーツが合うように上から押さえてなじませます。大型のクロスバーパーツは1個、小型のクロスバーパーツは2個作っておきます。
- d アンテナディッシュ大(#16)とアンテナサポート(#17)を接着し、cで作ったアンテナクロスバーの大をアンテナディッシュに取り付けます。クロスバーの先端はディッシュのリムの内側に合わせます。クロスバーの接着には瞬間接着剤かエポキシ系接着剤を使用します。最後にクロスバーの中心の穴を通してアンテナ・センタースパイク大(#37)を取り付けます。
- e アンテナサポート(#17)の両サイドにアンテナディッシュ小(#36)を取り付けます。クロスバー小をそれぞれのディッシュに瞬間接着剤かエポキシ系接着剤を使って接着します。ディッシュの外側のリムの内側にクロスバーの先端がつくようにしてください。最後にクロスバーの中心の穴を通してアンテナセンタースパイク小(#38)を取り付けます。
- f 組み立てたアンテナアッセンブリーを5bで組み立てたアンテナマウントに取り付けます。図のようになるようアンテナの向きに注意して組み立ててください。

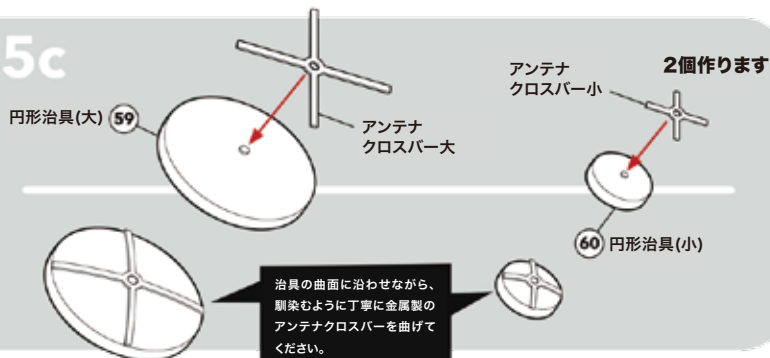
5a



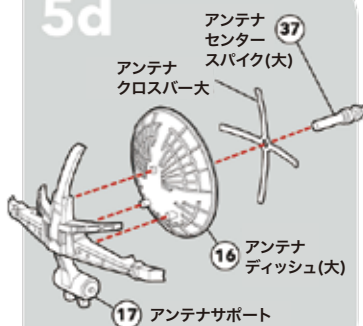
5b



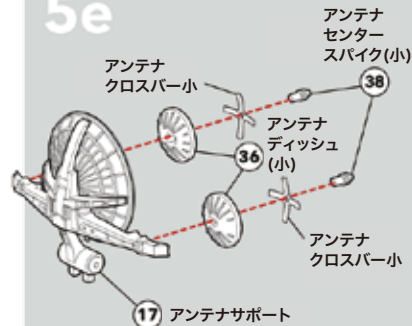
5c



5d



5e



6 ディスプレイスタンドの組み立て

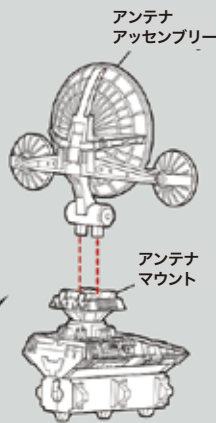
ディスプレイスタンドを組み立てます。3種類ありますからパーツを間違えないように注意してください。

まず、完成したモデルの前部のスタンドを組み立てます。ベース(#56)に最も短いサポートロッド(#64)を差し込んで、その上にトップカップ(#22)を取り付けます。

次に船体中央部を支えるスタンドを組み立てます。ベース(#56)に最も長いサポートロッド(#65)を差し込んで、その上にトップサポート(#23)を取り付けます。

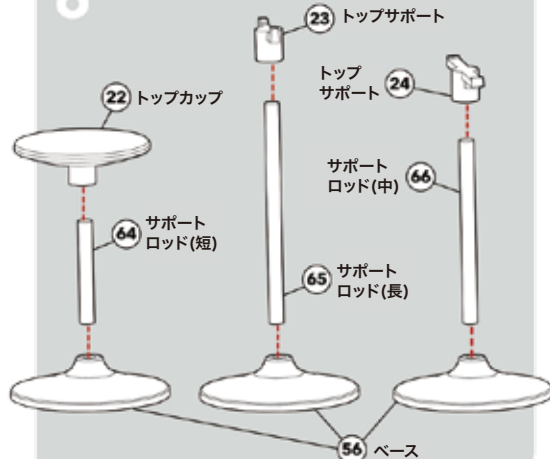
さらに、後部のスタンドを組み立てます。ベース(#56)に中くらいの長さのサポートロッド(#66)を差し込んで、その上にトップサポート(#24)を取り付けます。

5f



アンテナディッシュは図の向きで取り付けます。完成したときに後方に向きます。

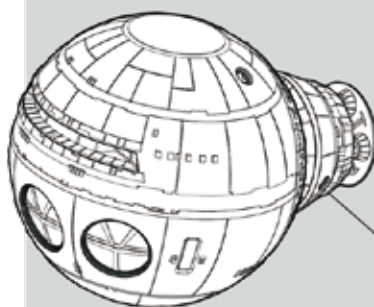
6



7 最終組み立て

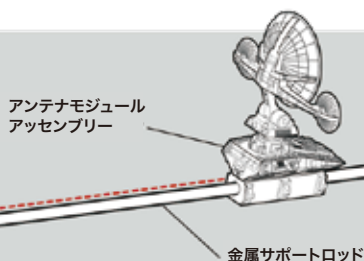
- a 瞬間接着剤かエポキシ系接着剤を使って金属のサポートロッドを最初に組み立てた乗員居住スペースアセンブリにしっかりと取り付けます。
- b 2個作ったフロントカーゴモジュールサポートを金属サポートロッドに差し込んでいきます。2個のカーゴモジュールサポートは接着。各パーツの取り付けには向きがありますので図をよく見てタブを合わせて取り付けてください。
- c アンテナモジュールアセンブリを金属サポートロッドに通してカーゴモジュールサポートに接着します。
- d リアカーゴモジュールサポートを金属サポートロッドに通して取り付けます。アンテナモジュールアセンブリとの取り付け位置は図をよく見て位置に注意してください。
- e 推進ブロックアセンブリを金属サポートロッドに取り付けます。接着には瞬間接着剤かエポキシ系接着剤を使用してください。推進ブロックアセンブリのリアパネルの中央の穴から差し込みます。

7a

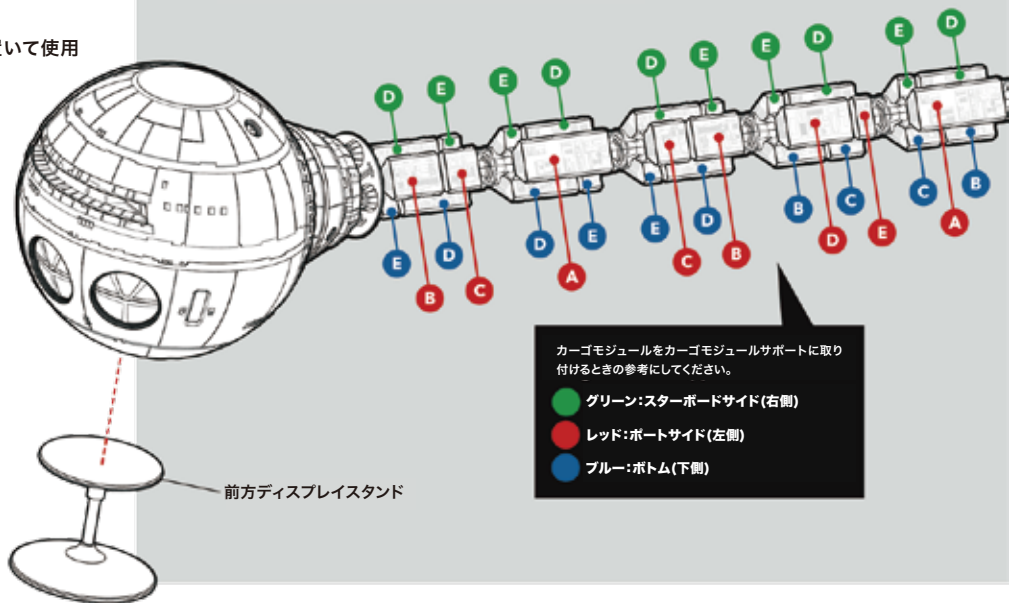


金属サポートロッドが乗員居住スペースにしっかりと接着されているかを確認してください。接着には瞬間接着剤かエポキシ系接着剤を使用することをおすすめします。

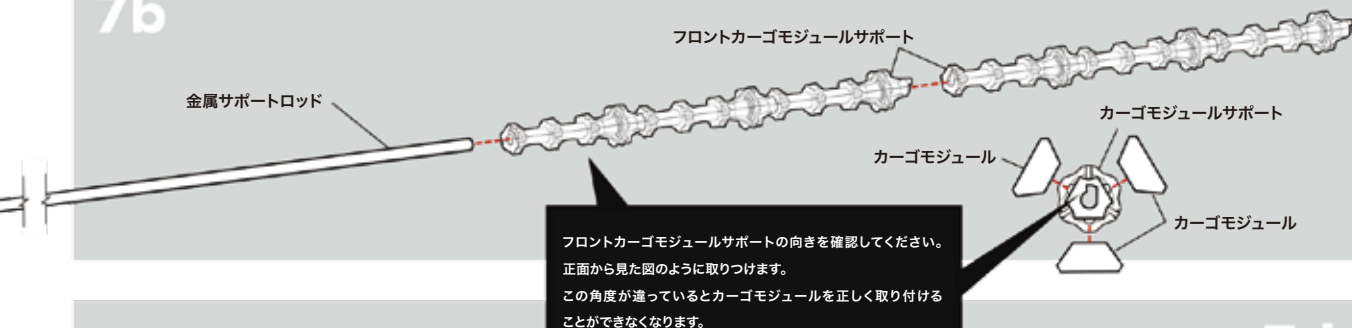
7c



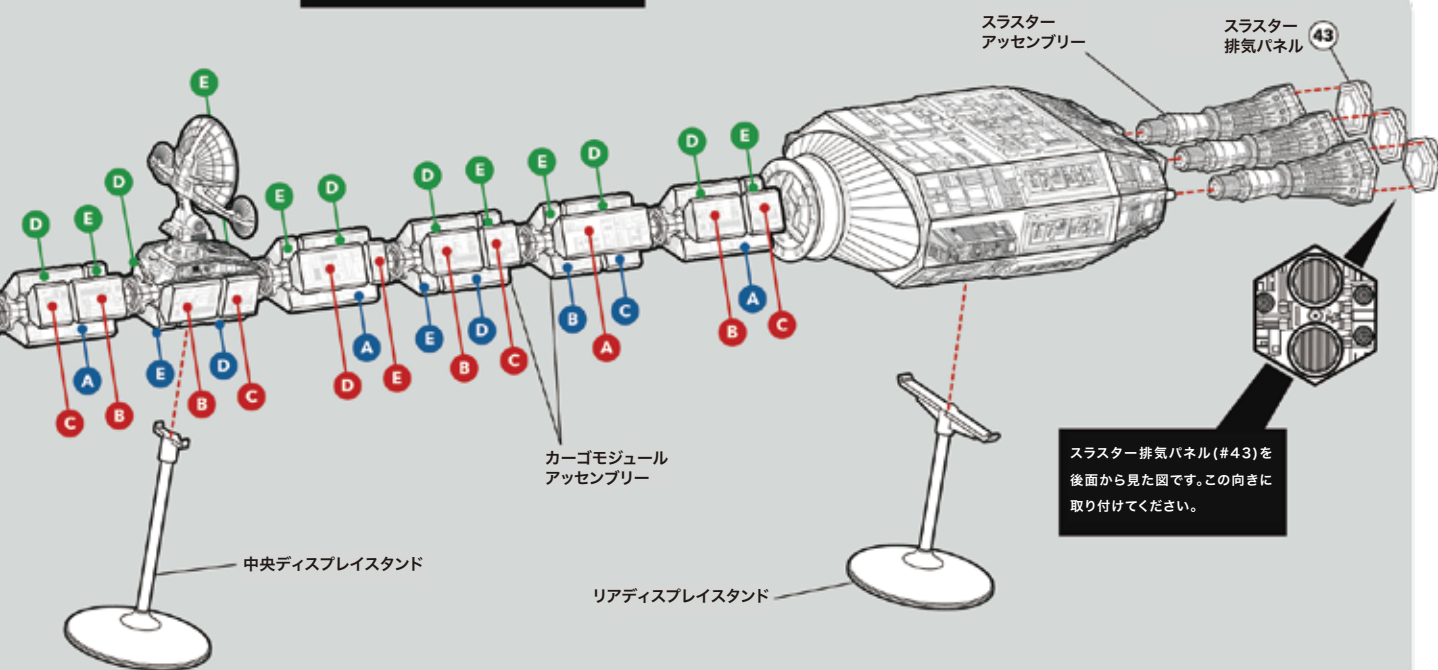
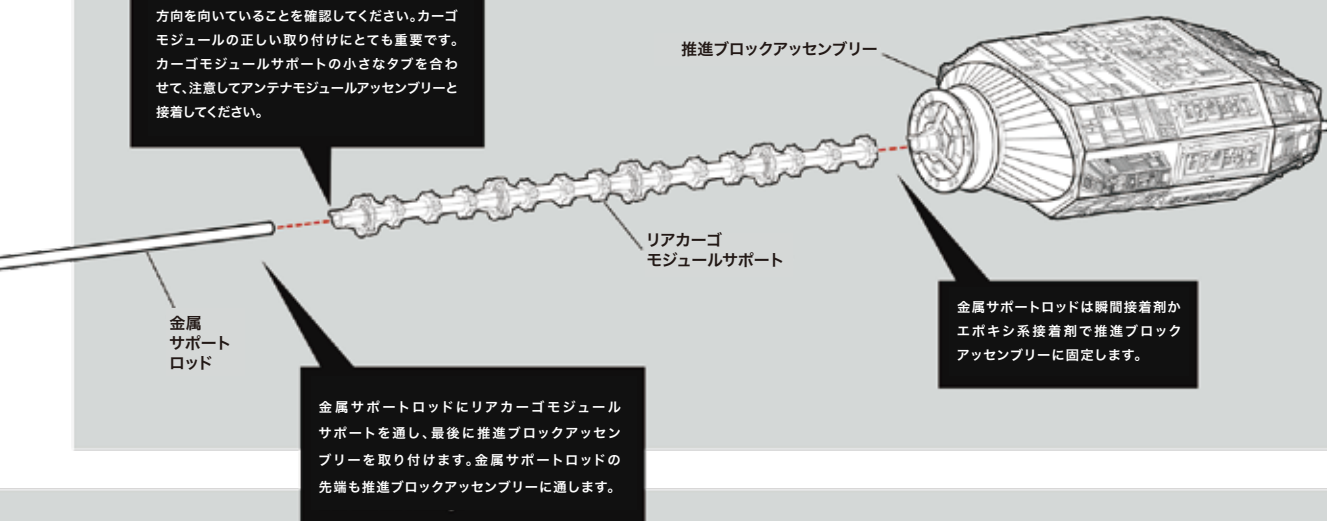
- f 5種類のカーゴモジュールをカーゴサポートモジュールに取り付けていきます。取り付け位置は図をよく見て進めてください。A、B、C、D、Eの5種類をどこに取り付けるかが図に示してあります。
- g 最後に推進ブロックアセンブリの後部に3つのスラスターアセンブリを取り付けます。そして、スラスターアセンブリの後端にスラスター排気パネルを取り付けます。図をよく見て取り付けの向きに注意してください。
- h ディスプレイスタンドは図の位置に置いて使用してください。
- ! パーツの中には予備のパーツが用意されているものもあります。組み立て終了後に余りが出ることがあります。



7b



7d-e



7f-h

塗装

全体塗装

ディスカバリー号の全体はマットホワイトで塗装されています。その中で乗員居住スペースの球体の一部、リング部分とネック部分の一部、さらに、カーゴモジュールの一部に明瞭な淡いグレーのパネルがあり、アクセントになっています。推進ブロックとスラスターは単純なマットホワイトで、灰色のパネルの塗り分けなどはありません。

乗員居住スペースのウィンドウフレームに黒い塗り分けの部分があります。パッケージの画像を参考に塗り分けるとよいでしょう。

また、さらに詳細な仕上げを考えるなら、映画の画像や資料書籍などを参考にするとよいでしょう。映画の中に登場するディスカバリー号は全体のマットホワイト塗装の中に場所によって微妙なグレーのパネルが見られます。加えて、いわゆるウェザリングの表現が見られないことも重要です。画面での奥行きは強いライティングによって表現され、長く伸びた陰影が細部のディテールを強調していました。

通常のライティングの下でもこうしたモデルに深みを与え、ディテールを強調するシンプルな塗装テクニックもあります。以下にいくつかのテクニックを紹介していますが、これらを参考にしたり、あるいはベテランモデラーのみなさんなら、ご自身の経験や独自の技法を駆使して塗装表現をお楽しみください。

パネルのディテール

必要に応じて、簡単なオーバースプレー技術を使用して微妙なパネルの詳細を作成し、均一な仕上がりを表現することができます。

まず、全体にサフェイサーなどの下地塗料を塗った後、マットホワイトのベース塗装を行います。

そのあとでライトグレーとミディアムグレーのペイントを必要に応じて施していきます。パネルを1枚ずつ筆塗りするか、マスキングしてエアブラシで塗装します。この時点でパネルが暗すぎると感じて心配はありません。グレーに塗装したパネルが完全に乾燥したら、調整したホワイトをオーバースプレーして全体の調子を整えます。希望の明度が得られるまで何度か繰り返すとよいでしょう。

深さの表現

上記の技法と組み合わせて、深さの表現を追加するのを助けるために、別のタイプのオーバースプレー技術を使用することもできます。

注意：なお、上記のパネルディテール表現技術に加えて、この手法を使用する場合は、パネルのディテール表現を追加する前に、この技法を必ず最初に実行しましょう。それに応じて塗装計画を変更してください。最適な結果と均一な仕上がりを得るためには、特殊な多層塗装技術を使用する際の注意深い計画が重要です。

最初に、グレーのプライマーのベースでモデル全体を塗装します。プライマーが乾燥した後、エアブラシでホワイトの塗料を塗装します。モデル全体をホワイトで軽く吹き付けます。あまり時間をかけず、厚く塗料を吹きすぎないように注意しましょう。これを軽く吹き付けることで、薄い仕上がりになります。これにより、スジボリなどの凹部のディテールの奥行きを残すことができます。これは、モデルに深さの印象を与えるでしょう。希望するような表現になるように何度も挑戦してみてください。

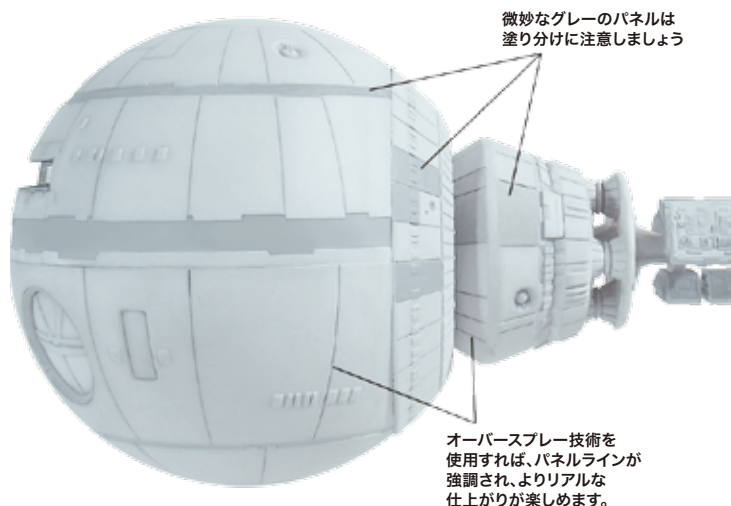
重要：上記のパネルディテール技術と組み合わせてこの深さの表現技法を使用している場合は、パネルディテールテクニックで、ライトグレーパネルを塗りつぶした後に白を追加し、グレーのアンダーコートと影をさらに明るくします。

その他の技法

そのほかにも類似した深さの表現があります。

最初に下塗りされ、白く塗られたモデルに、薄めたグレーでウォッシングを施すことも、細部のディテールを強調し、部分的に深さを表現するために使用されます。この時点で、グレーのパネルの詳細を追加することもできます。その後、グレーのウォッシングとパネルの塗装が完全に乾燥したら、最終的に調整した白のミストを上からスプレーして、全体のトーンを均一になるように仕上げて完成です。

作例は、ライトグレーのウォッシングを組み合わせることでパネルラインを強調し、最後にホワイトのオーバースプレーを施して全体のトーンを調整して仕上げています。



完成例の写真はコチラでご覧いただけます。

<http://www.platz-hobby.com/products/10481.html>

お問い合わせ



有限会社 プラッツ

〒424-0065 静岡県静岡市清水区長崎64-1

Tell.054-345-2047 (AM10:00~PM4:00)

info@platz-hobby.com

moebiusmodels.com

5515 Moreno Street • Montclair, CA 91763



© 2001: A SPACE ODYSSEY and all related characters and elements
© & TM Turner Entertainment Co. WB SHIELD: © & TM WBEL, (s20)
Prototype model shown - details may differ slightly from final product.
Prototype model was assembled and finished by a professional modeler.
Paint and cement required to complete kit - sold separately
© 2020 Moebius Models. All rights reserved. Made and printed in China.